





審査結果報告書

平成27年 8月 28日

主査 氏名 渡邊昌新 

副査 氏名 大部 誠 

副査 氏名 赤星 透 

副査 氏名 井上 俊介 

1. 申請者氏名 : 迎 美幸

2. 論文テーマ : Diagnostic performance of EUS for evaluating the invasion depth of early colorectal cancers.
(超音波内視鏡による早期大腸癌の深達度診断についての研究)

3. 論文審査結果 :

近年、大腸癌に対する内視鏡診断の技術は長足の進歩を遂げ、とくに超音波内視鏡の診断能向上は著しい。早期大腸癌のうち粘膜内に止まればリンパ節転移はなく、粘膜下層の浅層に僅かに浸潤してもリンパ節転移は極めて稀であるが、粘膜下層に深く浸潤した場合はリンパ節転移の確立が10%前後である。したがって、早期癌の治療戦略を立てる上で、深達度診断は重要である。そこで申請者らは早期大腸癌の治療方針を立てる上で、超音波診断の有用性に関して臨床病理学的に検討した。

審査では多数例の検討であることから、結果の正確性が期待される意見が目立った。正診率を上げるためには何を克服すべきかといった議論が持ち上がった。とくに T1a の比較的低い正診率の原因について質問があり、腫瘍の局在、形態、最大径などが挙げられることを的確に申請者は答えた。しかし、今後は拡大内視鏡の併用や粘膜下層剥離術の積極的な導入が、正診率をさらに向上させる鍵になると考えられさらに検討することとなった。できれば前向き試験が求められることも指摘された。また、超音波内視鏡の改良が進むにつれ、診断精度や再現性が向上する可能性も示唆された。また診断精度の向上に伴い、超音波内視鏡は治療方針の決定において重要な役割を果たすようになることを本研究は明らかにした。

以上、新たな研究課題が残されているものの、申請者の研究論文は独創性と新規性に富み学位論文に十分値すると結論された。